



# フェアトレードタウン=世界とつながるボトムアップのまちづくり ～市・商工会・市民団体3者の協働の取り組みで地域の活性化～

逗子フェアトレードタウンの会 共同代表 長坂 寿久

## 世界に広がる地域活性化運動

地球と世界の課題を「地域改革」として取り組む新しい運動が国際的に興隆しています。その1つが「フェアトレードタウン」です。フェアトレード（以下FT）は言うまでもなく、開発途上国の貧困と自立支援を目的としたフェアな貿易取引を目指して90年代から活発化し、21世紀に入って急速に国際的な広がりをみせてきました。そして、FTタウンはまちぐるみでFTに取り組もうとする運動として発展してきました。

2000年に英国のガースタングで始まり、現在では世界中に広がり、すでに33の国・地域の2,200以上の自治体が認定を受けてきました。日本では、熊本市（2011年）が第1号で、名古屋市（2015年）、逗子市（2016年）、浜松市（2017年）、札幌市といなべ市（2019年）の6都市がすでに認定されています。国内ではFTタウン宣言を目指して20程の自治体で運動が始まっていると言われており、これからさらに増えてくるかもしれません。



フェアトレードタウン認定式典の記念写真（2016年7月16日）

FTタウンとして認定されるには、日本では6つの基準をクリアする必要があります。①FTを推進する市民団体が設立され、②市民に知ってもらうための活動を展開し、③地元の企業や団体等でも社内でFT商品を使うところが現れ、さらに④地産地消など他の地域活動と連携して地域の活性化に貢献し、また⑤市民が身近にFT商品を購入できるショップが一定数以上あり、そして最後に⑥議会がFTを支持し推進する旨の決議を行い、首

長が「FTタウン宣言」を公表するというものです。認定団体である日本フェアトレード・フォーラムの審査を経て、逗子市は2016年7月16日に認定されました。

トップダウン度が強いのが日本の行政の特色ですが、FTタウンは市民が自分たちのまちがどのようなまちであって欲しいかをボトムアップで作りに上げていく運動だと言えるでしょう。この点で日本の新しい地域運動の1つと言えるかもしれません。逗子市のFTタウン宣言は「平和としてのフェアトレード」を高々と謳い上げた、他のまちの見本となる新鮮な宣言でした。



逗子市役所の懸垂幕「世界とつながる平和都市 フェアトレードタウン 逗子」、市庁舎に初掲揚（2018年4月25日）

## 醍醐味は市・商工会・市民団体3者の多様な協働による展開

逗子市では2011年度に「まちなかアカデミー創成事業」という、まち中をキャンパスのように、市民がさまざまな課題について議論し話し合うまちづくりを目指す事業を立ち上げ、その第1号としてFTが取り上げられ、

それを契機に FT タウンを目指す母体が誕生しました。まずは勉強から始めようと「逗子フェアトレードタウン勉強会」が立ち上げられ、その後タウンへの申請要件を整えるため 2015 年 3 月に規約ある任意団体「逗子フェアトレードタウンの会」へ改訂しました。

現在は毎月 1 回の運営委員会と共に、ほとんど毎月のように勉強会（ゼミ）やイベントを行ってきています。地域のマルシェへの出店、逗子が誇る映画喫茶シネマ・アミーゴでの FT 映画デイ、毎シーズン逗子らしい絵や写真を使って包装した FT チョコレート（まちチョコ）（最近数年は障がい者の方々を描いた絵）、特産品の少ない逗子に名産を作ろうと東ティモール産を中心とする FT コーヒー『逗子珈琲』ブランドの制作、FT 連続講座、そして毎年最大のイベントとして市との協働による市民交流センターや文化プラザホールを使った多彩なフォーラムの開催、FT を紹介する市内巡回展、中学校の給食に FT 商品（ゴマ）使用、市内レストランでの FT ランチメニュー導入キャンペーン、市の広報誌での広報、等々。



『逗子珈琲』のカッピング（試飲会）（2014 年 9 月 23 日）。アジア（東ティモール）、アフリカ（タンザニア）、中南米（チリ）のフェアトレードコーヒーから市民の人気投票で逗子珈琲のベースは東ティモールの豆と決定

## 市の予算計上ゼロでの協働事業の展開

私たちは 2017 年度からの 3 年間の「協働事業提案制度」に採択され 30 万円の助成金を獲得しました。しかし、逗子市はこの頃突然大型財政赤字が顕在化し、緊縮財政への取り組みから、とくに市民協働関係の予算が大きく削減され、私たちへの助成金も 2 年目までで打ち切りとなってしまいました。

しかし、予算ゼロであっても、私たちと市（担当課は市民協働課）との協働は続き、3 年目も「協働協定書」

を締結し、規模は小さめになっても実質的には 2 年目までと同じような事業を続ける努力をしてきました。この市の予算計上ゼロの協働協定書の締結はきっと珍しいに違いありません。

行政が持っている機能には、予算のみならず、実に大きくかつ有効なものがあります。担当協働部署である市民協働課に担当者が配置されていて、私たちの活動の企画から実施まで、そして当日の運営等全面的に業務として支援してくれます。7 か月連続の高校生・大学生対象の「FT ユースプログラム（研修）」は市との協働の故にご家庭の信頼を獲得できます。イベントのチラシを市内広報板に掲示する作業、学校給食への採用（ゴマ）、図書館での FT 図書展、市庁舎の外壁に巨大な懸垂幕、「世界とつながる平和都市フェアトレードタウン 逗子」が 5 月の FT 月間やイベント開催に合わせて掲揚され、威容を誇っているのも協働の成果です。



フェアトレードランチ・キャンペーンの協力店の商品とタグ（2019 年 5 月）

私たちは、地域をより良くしていきたいと願い活動している多くの市民団体の 1 つに過ぎません。しかし、地域の他の多くの市民団体と行政と商工会等との多様な協働によって展開していくことができるのが、FT タウンの醍醐味となっています。



FTYP（フェアトレード・ユースプログラム）の 3 期生修了式（2019 年 1 月 19 日）